



余土地区まちづくり通信Vol126

令和3年8月1日発行

〒790-0044松山市余戸東4-4-34

☎090-8979-4101

HP:www.yodo-machikyou-ne

メール:yodom4010@gmail.com

緑のカーテン運動「フォトコンテスト」作品募集案内

朝顔・ゴーヤ・糸瓜など、丹精込めて立派に育てた自慢の「緑のカーテン」の写真を撮って、地域の皆さまに見ていただくために、下記のとおり「フォトコンテスト」を実施しますので、多くの皆さんの応募をお待ちしています。

- 応募期間 令和3年8月1日(日) ~ 9月5日(日)
- 応募資格 余土地区在住の方
- 応募方法 封筒等に応募写真(裏面に氏名記入)とともに、題名・ご住所・氏名・連絡先を記入し、公民館ポスト又は事務所まで
- 審査結果 10月発行のまちづくり通信、ホームページにて発表
- 賞 最優秀賞・優秀賞・佳作等若干名
各受賞者には賞状・副賞を贈呈
- その他 ① 応募作品は、未発表・オリジナル作品に限ります。
② 応募作品は返却いたしません。
③ 採用作品の著作権は余土地区まちづくり協議会に帰属します。
④ 写真はカラープリント、サイズは2L判(127×178mm)のみといたします。
⑤ 出品作品はお一人一作品といたします。



「昔の遊び」体験事業 開催案内

～竹馬・竹ポックリ・竹トンボを作って遊ぼう～

余土地区まちづくり協議会教育文化委員会では、明治、大正、昭和30年頃までの子どもたちが盛んに遊んでいた「昔の遊び」を今の子どもたちに伝えようと「昔の遊び」体験事業を下記のとおり開催します。子ども対象の事業ですが、親子又はお孫さんと一緒での参加も出来ます。

なお、ご参加の場合は、マスク着用と会場での体温測定、手指の消毒にご協力ください。

日 時：令和3年8月29日(日) 9:00～11:00

会 場：余土公民館 2階 大会議室

内 容：「竹馬」「竹ポックリ」「竹トンボ」を作って遊びます。

※竹トンボ飛距離競争を体育室で開催予定

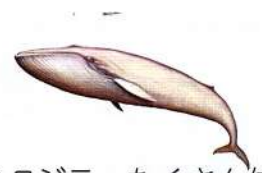


8月新刊のお知らせ

余土公民館図書室の「まちづくり文庫」に下記の図書を購入しましたのでご利用ください。

余土公民館図書室は、毎週月曜日と金曜日の10時から12時に開館し本の貸出(貸出期間：2週間)を行っています。

図書名(著者名)	図書名(著者名)	図書名(著者名)
おまじない (西 加奈子)	真夏の刺身弁当 (沢野ひとし)	「気遣い」のキホン (三上ナナエ)
魔力の胎動 (東野 圭吾)	人間の器 (丹羽宇一郎)	老いの福袋 (樋口恵子)
偶然の家族 (落合恵子)	さだの辞書 (さだまさし)	小説8050 (林 真理子)
オニのふろめぐり (岡田よしたか)	いのちの停車場 (南 杏子)	ニッポンの違和感 (松尾貴史)
わたしの本のある日々 (小林聡美)	にぎやかな落日 (朝倉かすみ)	ジュリーの世界 (増山 実)
水を縫う (寺地はるな)	52ヘルツのクジラたち (町田そのこ)	
丘のうえのいっぽんの木に (今森光彦)	つまらない住宅地のすべての家 (津村記久子)	
いつかあなたをわすれても (桜木紫乃)	ひとりなら、それでいいじゃない。(曾野綾子)	
生きること終うこと寄り添うこと (矢野博文)	うみがめのおじいさん (いとうひろし)	



☆ 52ヘルツのクジラたち ☆ (町田そのこ 著) 本屋大賞2021 1位受賞作

52ヘルツのクジラとは、他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさん仲間がいるはずなのに何も届かない。何も届けられない。そのため、世界で一番孤独だと言われている。自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる。注目作家・町田そのこの初長編作品。

【作家紹介】1980年福岡県生まれ、福岡県在住。「カメルーンの青い魚」で第15回女による女のためのR-18文学賞 大賞を受賞。2017年に同作を含む「夜空に泳ぐチョコレートグラミー」でデビュー。他の著書に「ぎよらん」「コンビニ兄弟―テンダネス門司港こがね村店―」「うつくしが丘の不幸の家」などがある。

☆ さだの辞書 ☆ (さだまさし 著) 2021年第69回日本エッセイスト・クラブ賞

「関白宣言」「北の国から」などシンガーソングライターのさだまさしのエッセイ集。さだは、シンガーソングライターのほか小説家として「解夏」や「風に立つライオン」など多くの作品が映画化、テレビドラマ化されています。今回の「さだの辞書」は、2021年第69回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した作品で、1998年「広辞苑第五版」に「目が点になる」が収録され、このことがご縁の自伝的エッセイ集です。収録されているテーマは、家族・故郷・ご先祖様、友・仲間・恩人、歴史・土地・希望、音楽・映画。ときに爆笑、ときに涙の三題噺25話。思い出や今の関心、次世代への期待に温かな人柄とユーモアが紡ぐ言葉にセンスが光ります。多芸多才の秘密も見えてくる作品となっています。

☆ いのちの停車場 ☆ (南 杏子 著)

吉永小百合主演の映画化された「いのちの停車場」の原作本である。東京の救急救命センターで働いていた62歳の医師・白石咲和子は、あること責任をとって退職し、故郷の金沢に戻り「まほろば診療所」で訪問診療の医師になる。これまで「命を助ける」現場で戦ってきた咲和子にとって、「命を送る」現場は戸惑うことばかり。咲和子はスタッフたちに支えられ、老老介護、半身まひのIT会社社長、6歳の小児がんの少女…様々な現場を経験し、学んでいく。家庭では、老いた父親が骨折の手術で入院し、誤嚥性肺炎、脳梗塞を経て脳卒中後疼痛という激しい痛みで襲われ、「これ以上生きていたくない」というようになる。「積極的安楽死」という父の望みを叶えるべきなのか、咲和子は医師として、娘として悩む。

【作家紹介】1961年徳島県生まれ。日本女子大学を卒業後、出版社勤務を経て、東海大学医学部に学士編入し、卒業後、都内の大学病院老年内科などで勤務する。作家としては2016年「サイレント・ブレス」でデビュー。

「余土の風景3」絵はがき 写真募集！！

～ありし日の余土の風景～

余土地区まちづくり協議会では、「余土の魅力PR事業」の一環として「重信川と石手川の流れる町」「花のある余土の風景」の絵はがきを作成しましたが、引き続き「余土の風景」パート3として下記のとおり余土地区にお住いの方からテーマに応じた写真を募集し、絵はがきを作成することになりましたので多数の応募をお願いします。

【目的】親元を離れている家族等への近況報告する絵はがき運動を進めたり、各団体の記念品用として、余土のありし日の風景写真を絵はがきにして余土の魅力のPRに資する。

【応募テーマ】ご家庭に残っている「ありし日の余土の風景」写真
明治、大正、昭和など年代は問いません。

【募集期間】令和3年8月1日～令和3年11月30日

【応募方法】余土地区まちづくり協議会（余土公民館内）にご持参ください。

提出時に、写真の撮影場所、撮影年及び応募者氏名・住所・連絡先電話番号をご記入していただきます。提出されました写真は返却いたしません。

【選考方法】応募のあった写真から8点を選んで絵はがきを作製します。



一歩く・自転車・車のシュミレーター体験開催



子どもたちを対象とした「事故にあわない、起こさない」をテーマとした交通安全体験型教室が、7月31日（日）に余土公民館で開催し、約60名の子どもたちが参加して行われました。当日は、駐車場では、松山市が導入している交通安全教育車を使用しての体験と大会議室では交通安全に関するクイズが行われました。

交通安全教育車には、自転車の正しい乗り方や自転車特有の危険な場面を実際に体験する自転車シュミレータや道路を横断する時に左右を歩きかう車を確認しながら、安全と思われるタイミングで道路を横断することができる歩行環境シュミレータなどが搭載され、これらを子どもたちが体験していました。

夏休み「子ども居場所作り」実施



余土地区まちづくり協議会総務企画委員会では、今年度の新規事業として、夏休み「子ども居場所作り」事業を実施しました。これは、余土地区の良さや「やさしさ」をゆったりと感じてもらい、子どもの家庭・学校でもない第3の居場所として帰るところの拠点となる場所を作る事業です。今年は、その第一歩として夏休み期間中に余土公民館を活用して、地域の大人が見守り安心して、安全な場所で子どもが自由に過ごすことができる居場所作りとして7月26日（月）～7月30日（金）と8月2日（月）～8月6日（金）までの10日間行いました。

この期間中は、公民館の学習室と図書室を開放し、宿題や読書をしたが子どもたちが来て、それぞれの時間を過ごしていました。また、ワクワク体験として日毎にテーマを決めた事業として、7月28日には「カタバルト飛行機を作って飛ばそう」、29日には松山市考古館職員による「勾玉作り」、30日には「夏休みの図画・工作の課題をやってみよう」の事業に事前に申し込んだ子どもたちが参加していました。



各地区・団体からの情報コーナー

第10回「ふるさと余土学」開催！！

明治24年の子規と孤鶴—天外は子規が付けたのか—



「一粒米の会」（会長：森二郎さん）では、7月18日（日）に松山市立子規記念博物館竹田美喜総館長を講師に迎え、「明治24年の子規と孤鶴—天外は子規が付けたのか—」をテーマにした「第10回ふるさと余土学」を開催しました。

今回は、これまで通説となっている「盲天外の天外は明治24年に正岡子規から貰った」ということが事実なのかどうかというセンセーショナルなテーマであったのか関心が高く、多くの参加者がありました。

竹田総館長は、明治時代に発行された「海南新聞」の新聞記事など多くの資料調査から、
①恒太郎は、松山中学校で草間時福校長や岩村高俊権令に直接指導を受けた先輩であり、政治論も文学論も出来、三樹堂孤鶴という俳人でもある。

②俳人孤鶴は、明治24年夏、海南新聞に「俳諧は文学の神髓なり」と俳諧文学宣言をなすなど、子規に比べても明治17年から俳諧の道に入って三樹堂孤鶴の号を持つ恒太郎の方が俳諧歴は長い。

③子規や柳原極堂にとって、森恒太郎は尊敬すべき大先輩であった。

これら正岡子規や柳原極堂と森恒太郎、孤鶴の関係性が明確であることから、明治24年に森恒太郎が正岡子規から「天外」の号を貰ったという定説は不可能であるという調査結果を発表されました。

また、明治24年～28年に発表された「天外」の句の作者は豊島天外のことであり、盲天外が「天外」と名乗った時期はなく、「盲人孤鶴」の時期があったと考えられ、「盲天外」の号は、明治29年に松風会会員になって以後号したと結論付けられました。

第11回「ふるさと余土学」開催案内

「一粒米の会」（会長：森二郎さん）では、「第11回ふるさと余土学」を下記のとおり開催しますので皆様のご参加をお待ちしています。会員以外の方の参加もご自由となっていますが、新型コロナウイルス感染防止対策を充分講じて開催しますので、参加される方は「マスク着用」をお願いします。

なお、新型コロナウイルス感染状況により「中止」する場合がありますので予めご承知ください。

日時 令和3年9月5日（日） 10：00～11：30

会場 余土公民館 2F 「大会議室」

内容 演題：「南予鉄道と余土村」

講師：余土公民館 館長 戸井田 樂 氏



令和3年度第1回「男性の料理教室」開催のご案内

昨年度から開始する予定だった「男性の料理教室」は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりましたが、今年度はコロナウイルス感染防止対策を講じて、男性の料理教室を開催することとなりました。

なお、調理した料理は公民館では食さず、持ち帰っていただきます。

また、感染防止対策の一環として定員を15名に限定しての開催となりますので、定員に達した時点で募集を終了させていただきますのでご理解ください。

日時：令和3年9月6日（月）、10：00～12：00

会場：余土公民館 調理室

募集人員：15名

応募方法：公民館窓口及び電話で直接申し込んでください。定員になり次第応募は締め切ります。

（余土公民館 ☎ 089-971-6752）

参加費：無料

持参品：エプロン。三角巾（バンダナ可）、手拭き、マスク

協力：食生活改善推進協議会余土支部



令和3年度 第1回ふるさと学級 開催のご案内

毎年開催しています“ふるさと学級”を下記の日程で開催することとなりました。

コロナ禍の中での開催となりますが、発熱があるなど体調不良者や感染拡大地域への訪問歴があつて14日間経過していない方の参加不可や会場での手指の消毒、参加者間の距離を保つ、定期的な換気などの感染防止対策を講じて開催しますので、新型コロナウイルス感染防止ご協力いただきご参加くださいますようお願いいたします。

なお、事前の申し込みは不要で、どなたでも、どの会場でも参加できます。（参加料無料）

また、第2回ふるさと学級は、10月に口腔衛生をテーマにした講座を開催する予定ですので、詳細が決まりましたらご案内いたします。

テーマ	開催日	会場	講師
スマホ講座	9月 8日（水）	市坪分館	愛媛CATV 社員
	9月14日（火）	保免西分館	
	9月29日（水）	余土公民館	

※ どの会場も午前10時から開講します。

市坪地区でふるさと学級「交通安全教室」開催

市坪分館（分館長：井上勝さん）では、松山南交通安全協会市坪支部の協力を得て、ふるさと学級の一環として「交通安全教室」を7月12日（月）に市坪分館で開催しました。この交通安全教室は、毎年開催していますが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止になっており、2年ぶりの開催となりました。当日は、松山南警察署から昨年度の高齢者の交通事故で亡くなった35名のうち18名が反射材をつけていなかったという夜間歩行する場合の反射材を身に付けておくよう注意喚起がありました。



延期した日程が決まりました!!

第59回
松山市民バレーボール大会
令和4年2月13日（日）

第33回
松山市民グラウンドゴルフ大会
令和3年12月19日（日）